

# 令和4年度 高短生調査の結果報告

高田短期大学 自己点検・評価委員会

## <本調査の目的>

高田短期大学に在籍する学生に対して質問紙調査を行い、学生の学習成果や短大生活の満足度等を把握し、高田短期大学の今後の教育や学生支援を改善・向上させていくための基礎資料の蓄積を目的とする。

## <調査方法>

高田短期大学の全学生を対象として実施し、調査項目は「基本属性」「1週間の活動時間」「授業内外における学習行動」「短大生活全般」「学習・生活支援」「キャリア支援」「学習環境」である。

## <結果>

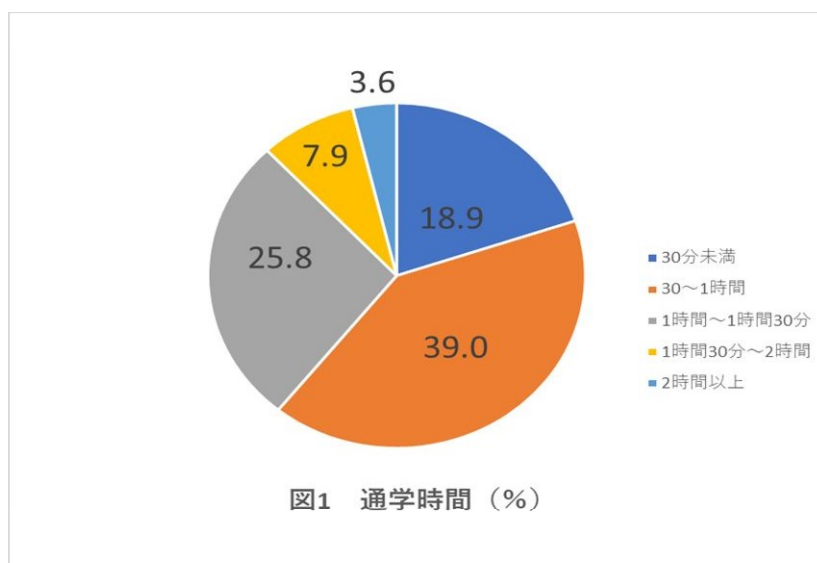
基本属性：所属学科および学年を表1・2に、通学時間を図1に示した。(回答者のみ)

表1 所属

	人数	%
子ども学科	316	75.6
キャリア育成学科オフィスワークコース	60	14.4
キャリア育成学科介護福祉コース	42	10.0
合計	418	100.0

表2 学年

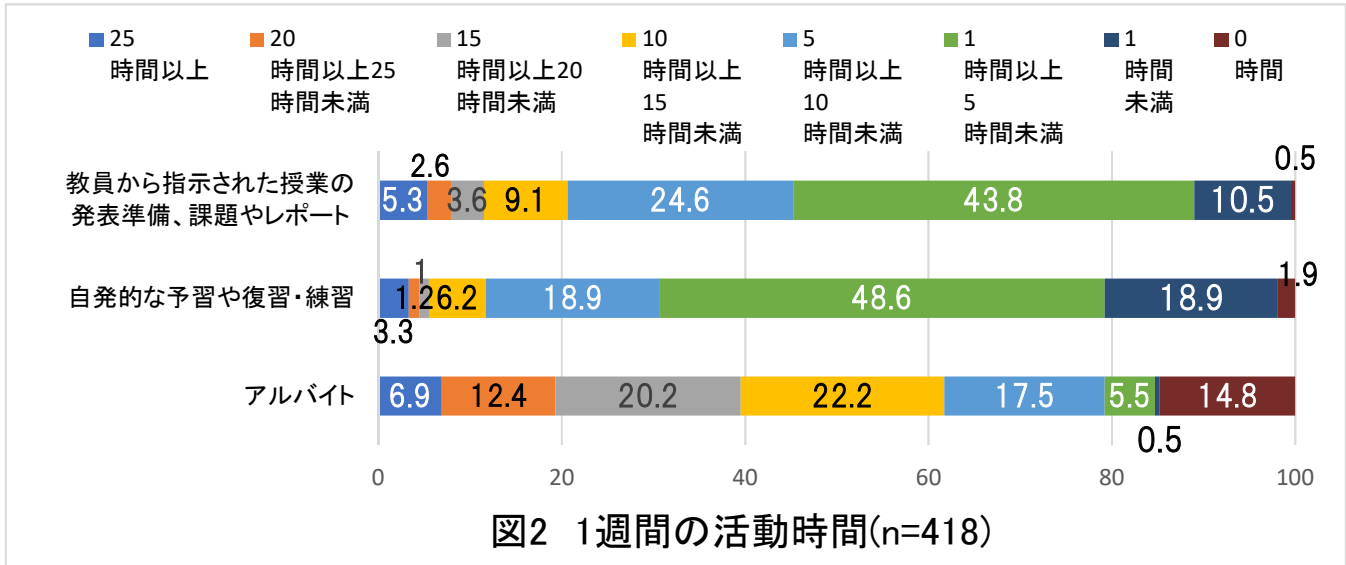
	人数	%
1年	197	47.2
2年	221	52.8
合計	418	100.0



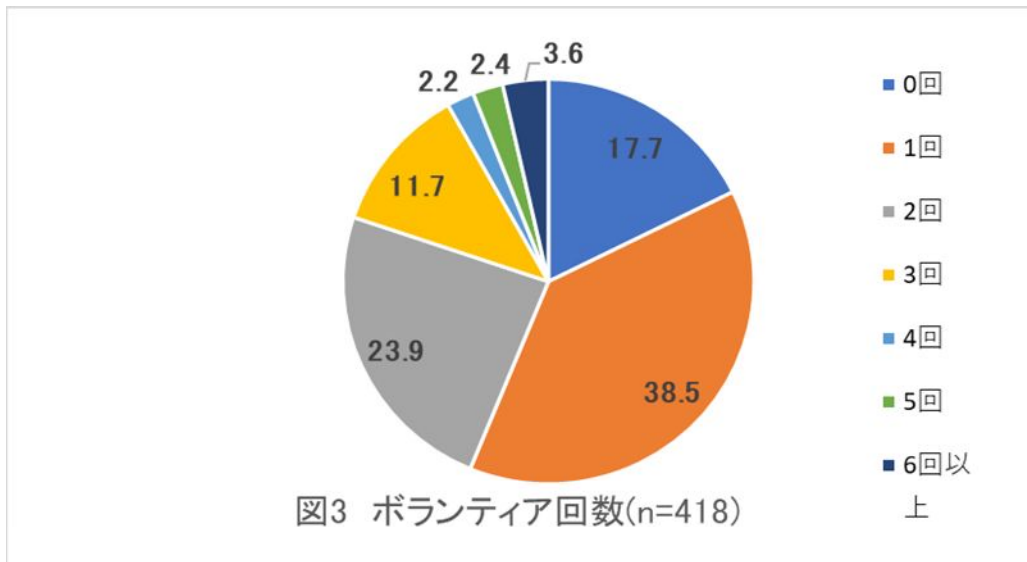
<結果>

令和4年度

1週間あたりの活動時間



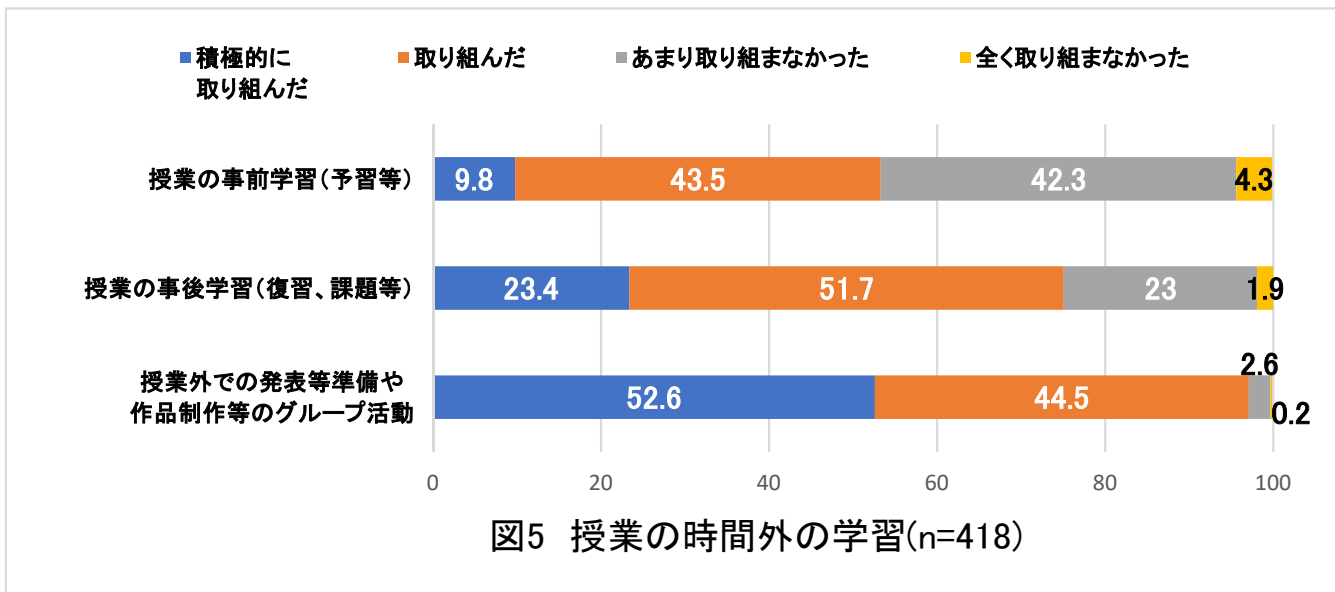
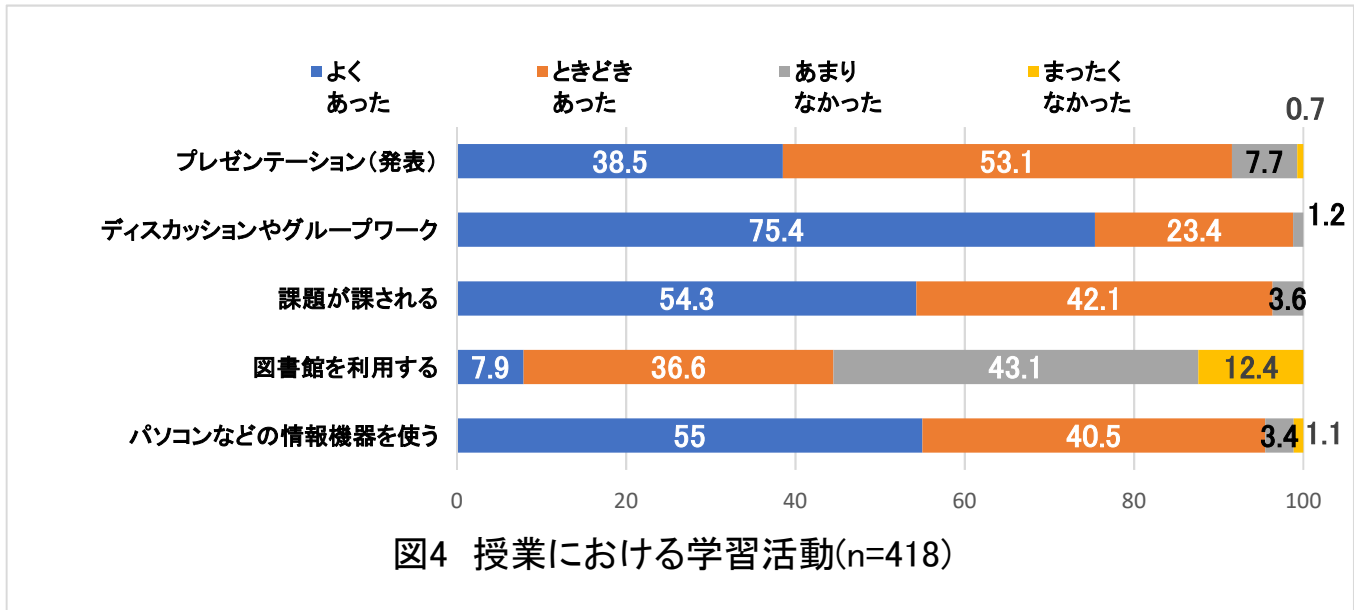
1年間のボランティアおよび地域交流活動への参加回数



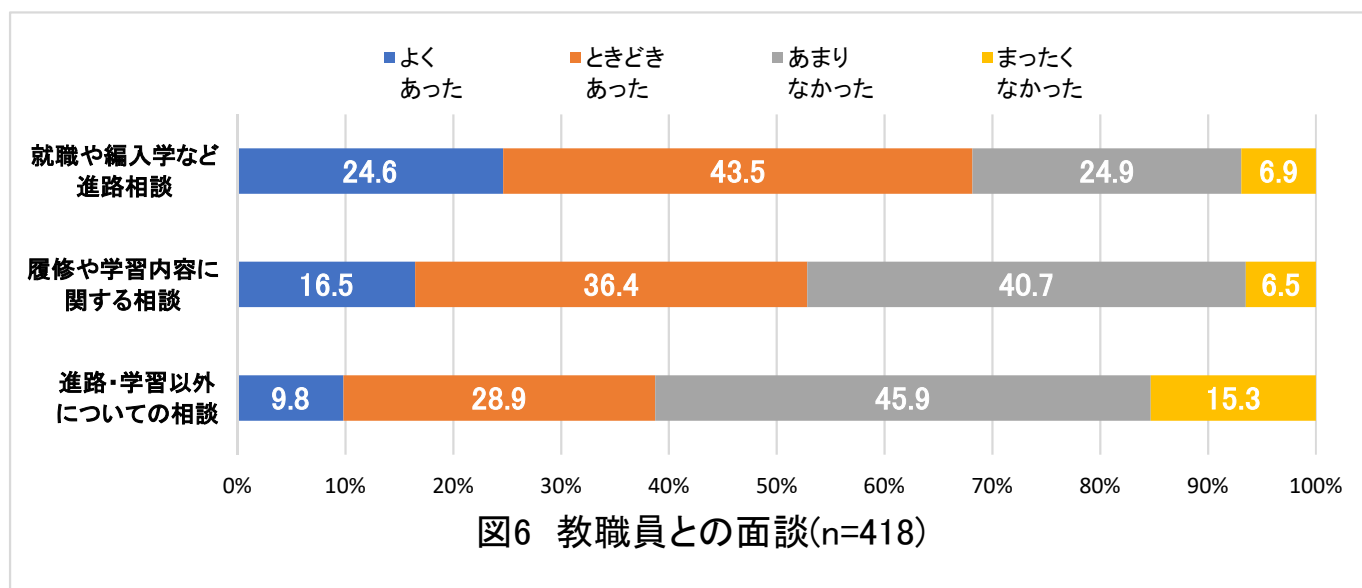
<結果>

令和4年度

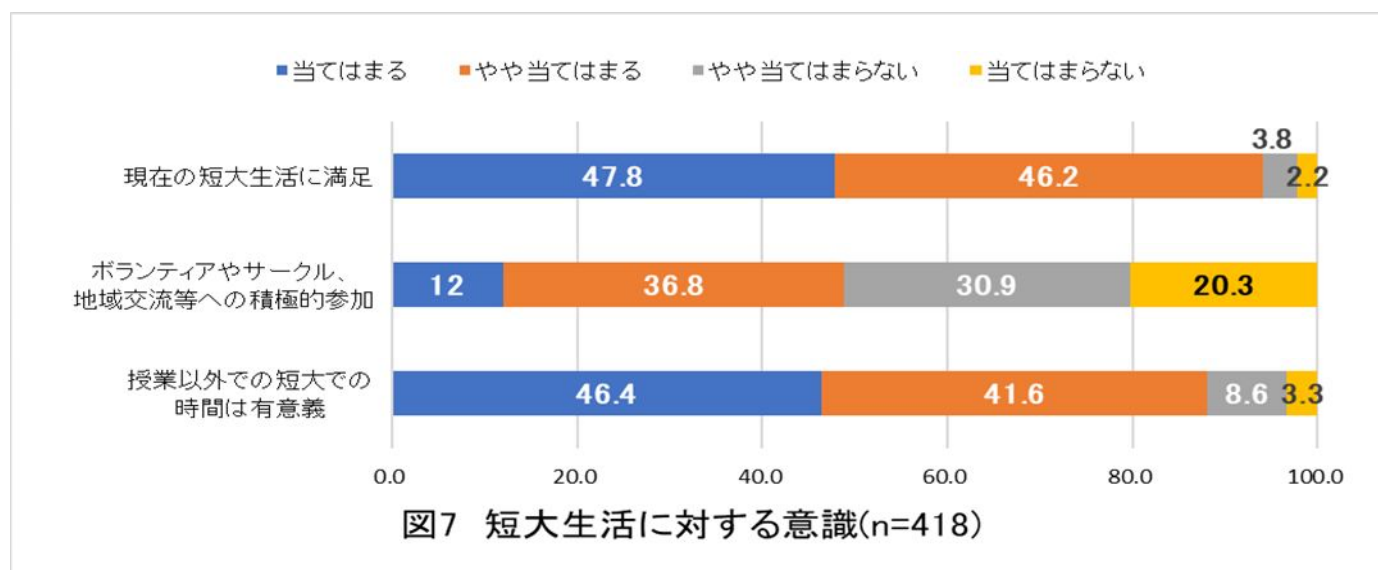
### 授業内外における学習行動



## 教職員との面談機会



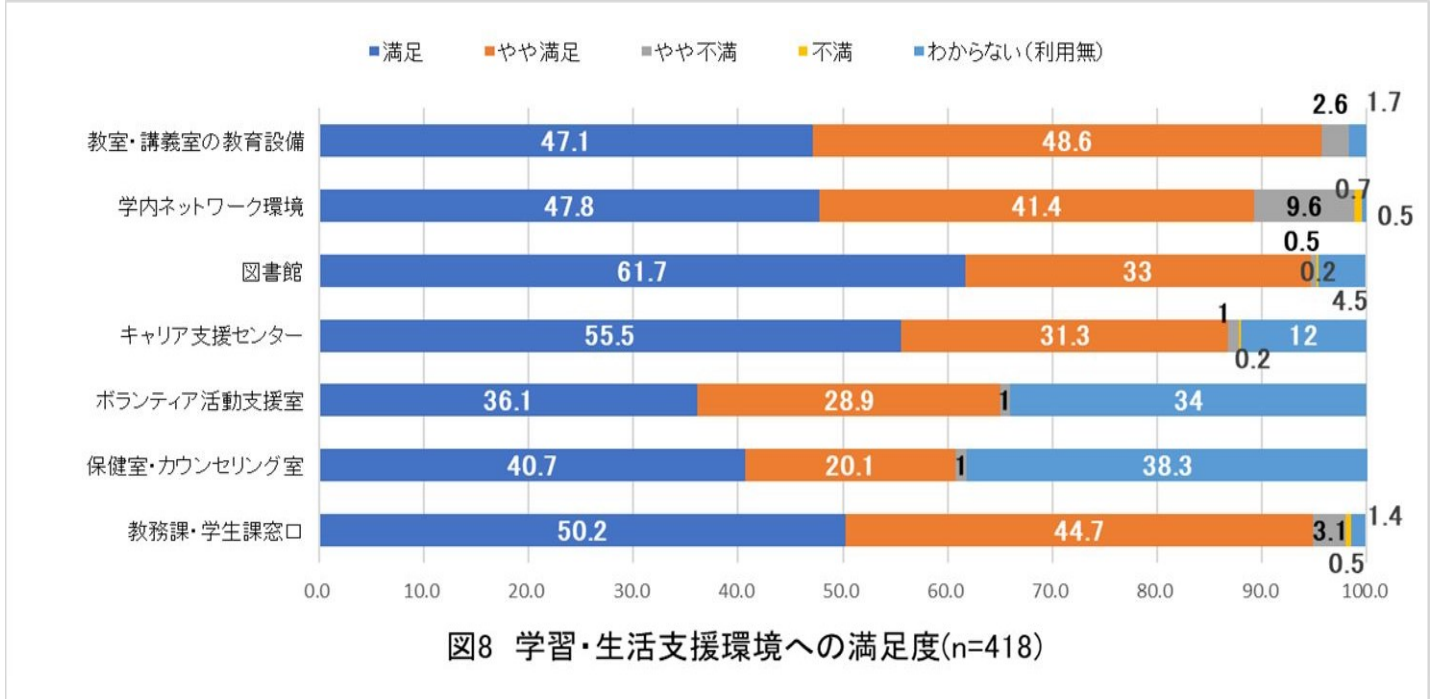
## 短大生活全般の意識



<結果>

令和4年度

### 学習・生活支援・環境



<p>* 分析対象 調査は526名の学生に行ったが、無回答を除いた418名のみ分析を行った(回答率79.5%)。</p>
<p>* 通学時間(図1): 1時間以内通学圏内の学生が57.9%で半数以上であった。</p>
<p>* 1週間当りの活動時間(図2): 授業外での学習時間では、課題やレポート等には1週間で5時間未満と回答する学生が54.8%で、予習・復習等自発的な学習では5時間未満が69.4%であった。アルバイト時間では、していない学生は14.8%であり、1週間15時間以上の学生が39.5%であった。</p>
<p>* ボランティア等の参加回数(図3): 1年間にボランティアや地域活動に一度も参加していない学生は17.7%であり、3回以上参加している学生は19.9%であった。</p>
<p>* 授業内における学習行動(図4): 図書館の利用があった(よく+ときどき)の回答となかった(あまり+まったく)の回答がおよそ半数ずつである。また、プレゼンテーションは91.6%、ディスカッション・グループワークや課題は100%近かった。グループワークはよくあったと回答している学生は75.4%であった。</p>
<p>* 授業外の学習行動(図5): 事前学習と事後学習への取り組み意識は事後の方が高い傾向であった。授業内でのグループワークの機会が多い結果であったが、授業外でのグループ活動への取り組み意識も高かった。</p>
<p>* 教職員との面談機会(図6): 進路相談68.1%、学習関連の相談52.9%のが学生が面談の機会をもっていた。進路・学習以外の生活等の面談は38.7%の学生があると回答していた。</p>
<p>* 短大生活に関する意識(図7): 94.0%の学生が現在の短大生活に満足しており、短大での授業以外の時間も有意義に過ごしていると回答した。</p>
<p>* 学習・生活支援及び環境(図8): 本学の学習支援や生活支援に関する調査7項目すべてが90%前後(わからない・利用無を除く)の満足度であった。</p>
<p>* まとめ ・昨年度より回答率が増加し、一昨年と同じくらいの回答率となった(80.9%→64.7%→79.5%)。遠隔よりも対面で調査依頼をし、その場で回答を求めることが回答率をあげることに繋がる。 ・結果のほとんどが昨年度と大きな違いが見られなかった。 ・ボランティアに参加していない学生は減少しており(52.9%→17.7%)、3回以上参加した学生は増加している(6.9%→19.9%)。新型コロナウイルス感染症の規制緩和によるものと考えられる。 ・プレゼンテーションやディスカッション・グループワークの頻度は昨年度より増加している。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたことで、アクティブラーニングを重視した授業に戻ってきたと思われる。 ・現在の短大生活に満足であるという回答が増加した(84.3%→94%)。学内での日頃の生活が戻り行事等も行われるようになってきたことによるのではないだろうか。</p>